

JCS NEWS

日本チェロ協会会報 第18号 (2003年8月31日)





去る4月6日、パリ・コンセルバトワール (パリ国立高 等音楽院) のフィリップ・ミューレル先生をお招きして、 日本チェロ協会主催のチェロ公開マスタークラスを開催 しました。

当日のプログラムと受講者3名の受講レポートをここ にご紹介いたしますので、当日の雰囲気を感じとっていた 堀内 詩織 ほりうち しおり (桐朋女子高等学校音楽科) だければと思います。

2003/4/6 (日) 14:00開講 サントリーホール 小ホール 通訳:長与 咲子 [聴講者:63名]

「受講者〕

伊藤 悠貴 いとう ゆうき (成城学園中学校)

パガニーニ:「ロッシーニの『モーゼ』の主題による序奏

と変奏曲」

ピアノ伴奏:伊藤 久美子

シューマン:「幻想小曲集」 ピアノ伴奏:関根 佳美

北口 大輔 きたぐち だいすけ (東京芸術大学大学院) ドビュッシー:「チェロとピアノのためのソナタ」

ピアノ伴奏:鈴木 慎嵩

マスタークラス受講レポートー①

ニュアンスを出して軽やかに弾くということ

S-051 伊藤 悠貴

1. はじめに

中学生の僕にわかるようにやさしくいろいろなことを 教えて下さったミューレル先生、このような機会を与え て下さった方々、本当にありがとうございました。僕に とって貴重なことでも協会会員の皆様の参考になるのか どうかはわかりませんが、当日習ったことをまとめてみ ました。

2. 全体的なアドバイス

まず最初に、僕は弓の元を使いすぎる傾向があり、それを直すと全体にもっと軽さが出る、というアドバイスがありました。

3. 部門ごとのアドバイス

3 小節目、g # は弓を投げ出すようにし、a のビブラートは強く。

5 小節目、 c # にアクセントがつかないように。大事な音はその前の d 。

8 小節目、最後の a のために弓をもっと残してフレーズ感を出す。

12小節目は、8小節目と同じようには弾かない(よりシンプルに)。

16小節目のアウフタクトからポジションが高くなるが、 その時「自転車競技のように」背中を丸くして姿勢を崩 さない。また、ハイ・ポジションでは親指を補助として 置いて使うと「一輪車が二輪車になるように」安定する。

17、21小節目、g のジャンプを大きく。

41小節目、最初のフラジオレットのdはA線で。

43小節目、カデンツァは小さくゆっくり始めて、だんだんアクセルをかける。その後少し速く。44小節のアウフタクトは弓を押し付けない。弓は元に来たらいつも右手を楽にする。

45小節目、dはビブラートを効かせる。ポジション移動の時、左手が楽器に当たってたたく音をさせない。ここから後の繰返しでは、どれも2度同じことをしないように。変化をつけるために、2度目は指使いを変えても良い。いつも2度目はより自由な感じになるように。

64小節目からの速いパッセージでは、A線のみで弾くように。その時、親指の準備を早めに。繰返した2度目は、弓の真中で軽くスピッカートで。右手は、人差し指を奥まで引っ掛けて小指で重さをコントロールする。人差し指の内側で弓の重さを感じる。手の中で弓が行ったり来たりする感じ。



75小節目、最初の音を押し付けない。 80小節目、4分音符の装飾音の前で一呼吸。 82小節目からの第2変奏は右手首を軽くすること。 102小節目、pになる前あまりゆっくりしない。

121小節目からの第3変奏でも、繰返し後の2度目は同じことをしないで、ニュアンスをつけて。

134小節目アウフタクトからの mp の ponticello では、 いつも同じところに弓があるように。

155小節目からの上昇形の繰返しでは1つずつ大きさの段階を明確につけて、最後がフォルテになるようできるだけクレッシェンドする。

4. 感 想

外人の先生の教えを受けるのは初めてで、どんなこと に重きをおいてアドバイスを下さるのかとても興味があ りました。

まず、内容的には、僕の弾き方では変化に乏しく面白 みがないとわかりました。直前に、この曲のもとになっ たロッシーニのオペラ「モーゼ」のCDを聞いて、この アリアがオペラ全体のクライマックスである第3幕で、 エジプトの軍隊に追われたモーゼー行が紅海のほとりに 追い詰められて絶望した時、モーゼが「神を信じよう」 と語りかけ、人々がそれに応えて再び立ち上がり、その 時海が割れモーゼー行が無事に渡りきる、という感動的 な場面で歌われることを知り、テーマのメロディの荘重 さを出せたら良いな、と思ったのですが、どうもそのイ メージが全曲を通して続いてしまったのだと思います。 先生はたびたび「ニュアンス」と「軽さ」を強調されま したが、パガニー二の作ったいろいろなテクニックを駆 使した変奏曲の部分は、何より面白みがなければいけな いので、もっと楽しくしゃれたイメージ作りをしなくて はいけないとわかりました。

テクニックのことでは、左手の特に親指の使い方はと ても参考になりました。難しいところで運を天に任せて 突っ走るのではなく、失敗を避けるテクニックがあるの だと思いました。

マスタークラス受講レポートー②

作曲者の声を聴く

S-043 堀内 詩織

最初に全曲弾き終わって、まず版についてのお話がありました。私はペータース版を持っていきましたが、この楽譜の編曲者でありシューマンが生きていた時のチェリストであるグリュッツマッハーのアレンジは良くないとの事でした。シューマンは、楽譜に書いてあることに非常に誇りを持っていた人なので、作曲者自身の意思を反映した物を選んだ方がいいようです。版は全ての作品において、とても大切である事を学びました。

3 小節目の4 拍目から4 小節目、Vibrato の使い方と弓の速さがピッタリ合うようにする。4 小節目には松葉がついているので注意。

18、19、20小節目はA線の上で。20小節目はできるだけ長い ラインを保つ為にボーイングを変えないように。

29小節目の頂点のAの音は、あまり遠慮しないで出す。しかし長くならないように。

27小節目(1回目)には fp があるが29小節目(2回目)は何もないので、そのまま弾く。弓の都合が聞こえないようにレガートで。27小節目の fp はもっとだすように。シューマンの fp は、硬くはなく、とても espressivo なので。

29小節目からは、1小節間は一つの弓で弾くこと。あまり弓を変えてしまうと1つ1つに大事さがいってしまう。58小節目の4拍目から、もっとピアノとのバランスを考えて弾く。

62小節目の最後の音が大きすぎて次の全音符が小さすぎる。 そこの切り換えは手首を使って弓を回転させるように弾くと、 あまり弦をこすらなくてすむ。

最後まで dim .したいのであったら、あまり早くp にしてしまうとや りにくいので、64、65小節目ぐらいまでは keep しておくようこ。あと は、段階をつけてグラデーションのように小さくしていく。

12小節目の音、圧力が足りない。もっと響きをだして。ハッキリとした物言いが欲しい。

29小節目のBの音は dim .と書かれているが、subitop ではない。急に P になりすぎないように注意。

30小節目の二拍目は、響きにくいD線で弾くという事と、弓の 先で弾くという、楽器が鳴いにくい要因が2つ重なっているの で、前もってそこを意識して弾くこと。少し弓の真ん中に近い 所で弾くと良い。

64小節目の Coda からV (アップボー)の時に cresc.や、 Π (ダウンボー)の時に dim.なってしまわないように、十分気をつけること。レガートに。65小節目のE の音が小さすぎないように、

70小節目の4拍目からの3つの音は1つの弓でレガートに。 71、72小節目はD線で弾いた方が *espressivo* になる。 シューマンの曲では、いつも2つの強さがあって逆三角が縦になっているsfのようなものと、fpのような非常にespressivoなものがある。シューマン自身は、それを分けて書いているのに、グリュッツマッハーはあまり忠実に書いていない。しかし、このsfはしっかりと弾きながらも感情を出して弾く方が良い。

18小節目の sf をたくさん出す。Vibrato と弓のスピードを同時に。音が出た後は弓をゆっくりしてもいいから、音の出始めはスピードをつけて。アタックをたくさん。

(*以下より、繰り返しをした場合の1回目の小節番号) 42小節目(C-4)のfp、45小節目(C-7)のfp、たくさん出す。46小節目(1カッコ)のff、この形のffは本当にたくさん出す。

64~67小節(D-10~13)は、絶対にレガートで弾いた方がいい。(2回目も同じ)65、66小節(D-11、12)の sf、たくさん出して、Vibrato たくさんかけて。

83小節目(E-1)の3拍目のFis は大きくならないように、1、2拍目のEisは緊張していて、Fis でその緊張がほどけるように。94小節目(E-12)、松葉をたくさん出して、感情もたくさん出すように。

104小節目(F-7)と105小節目(Coda)、同じ指使いしないように。105小節目に、変化をつける。別の色になるように。104小節目の3拍目でA線を使い、音量も出した方が良い。105小節目の2拍目~109小節の1拍目(Coda-5)はシンプルに弾き、2度目の少し複雑になっている109小節目の2拍目~113小節目の半拍目の方を、たくさん変化をつけて感情を出す。

128小節目(H - 1)の fp から cresc .をたくさんする。

<感想>

今回のレッスンで特に印象に残った先生のお言葉は、同じ パッセージは変化をつけるという事と、レガートを大切にすると いうことでした。

この曲は、繰り返しが多いので難しいと思っていましたが、 今回でどのように弾けば、より変化が出て雰囲気が変わるか という事を学ぶことができました。

これからは、作曲者の意志を尊重して曲作りをしていきたいと思います。



マスタークラス受講レポート一③

楽譜に忠実に演奏する

S-057 北口 大輔

今回のこのドビュッシーのソナタを本場のフランス人である ミュレール先生にレッスンしていただけて、大変勉強になった。 特によく注意されたことは、楽譜に書かれている事を忠実に 再現する、ということだった。

まず、この作品はいろんなスタイルで演奏される事が多いが、ドビュッシーの書いた譜面をよく見ると、本当に細かく、そして正確に書き込みがされている。そして、その書き方は、解釈して演奏する上で、いろいろなイマジネーションを与える書き方がされている。

例えば、この曲を演奏する「背景」や「舞台」に見えてくる ものは、ピエロであったり、月であったり、いろいろなものを 思い起こさせる。そしてドビュッシーはこのソナタに「月と喧 嘩したピエロ」という副題をつけており、そして曲の中にも、 ピエロに関するフランスの古い民謡によく似たフレーズが **使**われている(2楽章の13、14小節)。そしてこの曲を初演 したルイ・ロゾーというチェリストはこの曲を演奏した際に 「白装束のピエロが月に向かって、セレナードや物悲しげな 歌を歌っている」といった内容の詩を付けて演奏した。しか しドビュッシー自身は、そのような詩を付ける事に抗議する ほどその演奏が大嫌いだったらしい。つまり、ピエロというイ メージはいいのだが、あまりそれを表に出さない方がいい のだ。ただ、ポウイングに関しては、ドビュッシーはそこまで 細かく指定はしておらず、演奏家に任せる部分が多かった ようだ。だから、まずはドビュッシー自身のフレージングに尊 敬を持って接して、その上で、どのような弓使いをするかは 演奏家の問題なのである。

第1楽章

出だしのピアノの序奏ははっきりとレントで弾くこと。3連譜もはっきりと。そして、5小節目のチェロは dim があるまではしっかりとがで音が抜けないように。7小節目の4拍目の指使いは1234で。最後の34は全音で、少し指が開きにくいのだが、この指使いで弾くとポルタメントが入らないので、とても自然に聞こえた。

8 小節目のテーマに書かれてある、sostenuto は、「テンポがゆっくりになる」という意味ではなく、「音を下の方で保って」という意味で捉えたほうが良い。 そしてこのテーマはdolce と書かれているが、その後に piu dolce、さらに piu p、そして ppとなるので、あまり小さすぎない方が良い。

13小節目の最後のクレッシェンドした「レ」の音は、左手で最後の響きをわざと止めてしまうように。

16小節目の毎拍ごとのクレッシェンドは一歩一歩階段を昇っていくようなイメージで。この毎回のクレッシェンドのニュアンスは非常に効果的で、これをはっきり出すためにはルバートしないで、正確なリズムで機械的に弾けるようこよく練習すること。

21小節目から29小節目までのアニマンドはピアノがリード

するように。

38小節目の molto dim をうまくやるために、その小節の弾き 出しはあまり小さくなく。

そして、次の39小節目にはすぐ入ること。楽譜に書かれている // の記号は「切る」という意味ではない。

45小節目の poco vibrato は、そこでよりたくさんのヴィブラートをかける、という意味に解釈するべきである。

第2楽章

出だしの PIZZ は、ピエロが怪しげに歩いている感じで。3 小節目あたりからはつぎひと。

13小節目で遅くならないように。*In tempo*で皮肉、揶揄といった感じを表現する。

21小節目などに見られるアルペジオはゆっくり、きちんと音がばらけるように弾く。

31小節目は、ドビュッシーの指定したテンポの変化を厳密に守って。それまでの四分音符が、次の付点四分音符と同じ音価になるように。

49小節目の PIZZ は、ピアノのアルペジオとつながって聞こえるように。

56小節目でテンポが変わらないように。

第3楽章

はじめの小節の、四分休符をしっかり感じるように。

14小節目の2拍目のはじめにタイの音を省略してしまわないように。省略すると、弾き易くなるが、楽をしないように。

23小節目のはじめのアルペジオは響きを残して。

57小節目からのテンポは、八分音符ではなく、四分音符単位で感じること。

69小節目からの三連譜の連続するところは、テヌートの付いている音は、スタッカートの音と明らかに弾き分けるように。

85、86小節目のアルコとピチカートの入れ替わるところは、 むずかしいが、やはりやるべきである。

93、94小節目のような音型に付いているテヌートは、その音が特に大事な音であることを表している。

115小節目はテンポが単純に倍になるだけで、基本のテンポは特に変えないように。そしてそこからのテンポも、ritのあるところまでは遅くならないように。 119小節目からの最後の 5 小節間ははっきと3 楽章の冒頭のテンポで弾く事。

今回のミュレール先生のレッスンを通じて一番感じたことは、楽譜を注意深く読み、そしてすべての書き込みに気を配るべきであり、そして、その音符にどういう意味が込められているのかをよく考えて弾かなければいけないということだった。いかに自分の曲に対する理解が甘かったかを痛感し、そして、これからもっと深く、より真剣に音楽に取り組まなければいけないかを認識させられたレッスンだった。



3/20 チェロサロン開催



秋津智承先生主宰 フェリーチェ音楽院(西宮)





去る3月20日、兵庫県西宮市のフェリーチェ音楽院に て、秋津智承先生にチェロサロンを主宰いただきました。 参加者の皆さんには、秋津先生がご用意くださった シューベルト「ロザムンデ」、ゴルターマン「セレナー ド」を、先生のアドバイスを頂戴しながらアンサンブル でお楽しみいただきました。

秋津先生からのアドバイスや参加者からの質問にお答 えいただいた内容と、当日参加された会員の船場さんの レポートをここにご紹介します。

アンサンブルの心構え

音が濁ったときに他人のせいにしないで、ふと自分の音程 を疑ってみましょう(笑)

パートごとに"核"になる人(いわゆるトップ)を決めて、周りの 人はその人を中心として音楽をつくるようにすれば、良いアン サンブルになるのではないでしょうか。

シューベルトについて

素朴な曲も多いシューベルトですが、「純粋さ」ということ に限って言うと、彼の書く曲はものすごくレベルが高い気がし ます。それゆえに演奏するときに、そこのところに気を遣いま

(「ロザムンデ」をアンサンブルで弾きながら.....)"大事 に "しすぎるといつの間にかテンポが遅くなってしまう。" 大事 に "しながらも遅くなるのではなく、音楽が同じテンポで延々と 続いていく感じ。さながら、長い隊列が目の前を通りすぎて ずーっと遠ざかっていくような、遠ざかっていくんだけど、消 えてしまわないでまだ遠くに見えている。そんなイメージを持 ちながら弾いてみるのも、いいのではないでしょうか。

《Q&A》

Q:伴奏の時など低弦で薄い音を出したいが、どうしても音 が分厚くなってしまうのですが...

A: 弓を「筆」に喩えた人がいました。アコードのときはべったり 垂直に弾きますよね。薄く弾きたければ単純に角度をつける。 筆で言うと、「髪の毛1本で」といったイメージでしょうか。

Q:弦を張り替えるタイミングの目安などはありますか?

A: その方の弾き込み方によりますね。それと、そのときに弾く 曲にもよります。自分で弾いていて「音が硬くなってきた」と感 じたら替え時なのでは。切れるまで、ではないですね。(笑) Q:同様の質問ですが、ヤニはどの程度の頻度でつけたらい

いでしょうか?

A:これぜ必ずこうという法則はないように思います。必要な ときにつければいいのでは。音の要求によるところが大きいで しょうね。例えば、オケで"キザミ"を多用する場合はつけた リ・・・ショスタコヴィチでスタッカートが多い曲など。フランスも のや武満なら(もちろん曲によりますが)つけなくてもイイかな、

その時々に応じてつけたりつけなかったりしています。ご参考

Q:チェロ暦7年ですが、ヴィブラートがうまくいきません。いま は手首を回転させるようなやり方で弾いています。この方法が 良くないんでしょうか?

A: やはり一概に「これが正しい」とは言えませんね。それぞれ に合ったやり方があるでしょうから。おっしゃったような回転さ せるやり方以外に、棹のうえで指をごく細かく滑らせる、ドレッ シングを振るような動きでヴィブラートをかけるやり方もありま すよね。ただいずれにしても、手をやわらかく使うことが大切と は言えると思います。もう1つ、ヴィブラートをたとえば「スマイ ル(Smile)」と考えてみてください。人もずっとマジメな顔をし ていたら疲れますが、時々ちょっとスマイルしてみる...そんな こともヒントになればと思います。

チェロサロンに参加して

今回のイベントは秋津先生のご指導の元、約20名の参 加者が4パートに分かれてアンサンブルの豊かな音を作 ろうというもの。先生がご用意して下さった楽譜はゴル ターマン「セレナーデ」、シューベルト「ロザムンデ」の 2曲。まず「セレナーデ」の練習に入る前に先生が特別 に音のハーモニーを掴みやすいように編曲してくださっ た白玉ばかりのセレナーデ譜面が配られました。これを ゆっくりしたテンポで合わせる事で次の段階へ。しかし これがなかなか難しくピアノで音程確認をしたり2パー ト毎に合わせたり。音を丁寧に聴く訓練が必要な事を実 感させられました。この練習のおかげで本番セレナーデ、 かなり弾きやすくなったと思います。

「ロザムンデ」ではアンサンブルをする上で自分の役割 認識の重要性を教えていただきました。特に小さい音、 dim.でずっと続きながら消えてゆく感じの練習に時間が かけられました。小さな音で音楽を繊細に表現して豊か なアンサンブルをつくりだすのはとても難しいですね。 また、質問コーナーではビブラートの仕方、弦の交換時 期、ヤニのつけ方、4弦目での細い音の出し方などの質 問があり、あっという間に2時間がすぎてしまいました。 「もう少しロザムンデ弾きたかったね」という声も。私 も同感でした。またこのような企画があれば参加したい と思います。 (2003年4月1日 R-204 船場 牧子)

事務局よりお知らせ

大阪フィルハーモニー交響楽団の首席チェロ奏者として、またその他にも様々にご活躍中の秋津智承先生から、このほど初めてのCDとなるJ.S.バッハの「無伴奏チェロ組曲」(全曲)が届きました。チェロ協会の皆さまにご案内させていただきます。3枚組で、価格は4000円(税込)です。購入ご希望の方は秋津先生まで直接お申し込みください。郵便、FAX、電子メールのいずれでも申込可とのことです。

お申込先

〒731-0221 広島市安佐北区可部3-16-4 秋津智承 FAX 082-815-4550 E-Mail=akitsu@dl.dion.ne.jp ご注文のときに、購入組数、お名前、ご住所、ご連絡先をお知らせいただければ、こちらからCDをお送りして、後日CDに同封しました口座番号に送料込みの金額をお振込いただく形をとっております。(秋津智承)

情報コーナー

福田進一・長谷川陽子 デュオリサイタル

9月19日 (金) 19:00開演 いずみホール 出 演:長谷川陽子 (Vc)、福田進一 (Guit)

入場料:S5000円 A4500円

お問合せ:大阪新音 http://www.osaka-shinon.com/

パドヴァ・トリオ in TOKYO

9月26日 (金) 19:00開演 音楽の友ホール

出 演:パドヴァ・トリオ(マルモ・ササキ (Vc) 、 ウララ・ササキ (Pf) 、佐々木一樹 (Vn))

入 場 料:全席自由4000円

お問合せ: プロ アルテ ムジケ 03-3943-6677

グットマン&ヴィルサラーゼ<ロシア音楽祭2003>

10月11日 (土) 18:00開演

東京オペラシティコンサートホール

出 演:ナタリア・グットマン (Vc)、 エリソ・ヴィルサラーゼ (Pf)

入場料:S6000円 A5000円 B4000円 C3000円

学生2500円

お問合せ:ジャパン・アーツ03-3499-9990

パスカル・ロジェ 小林美恵 長谷川陽子 ピアノ・トリオ

10月12日 (日) 15:00開演 紀尾井ホール

出 演:パスカル・ロジェ (Pf) 小林美恵 (Vn)

長谷川陽子 (Vc)

入場料:S5500円 A4500円 B3500円

C 学生優待 A 2000円 学生優待 B 1500円

お問合せ:アスペン03-5467-0081

クリスティアン・ギガー

10月21日 (火) 19:00開演 武蔵野市文化会館 (小) 出 演:クリスティアン・ギガー (Vc)、小林由佳 (Pf) 入場料:1000円

お問合せ:武蔵野文化事業団 0422-54-2011

ジャン=ギアン・ケラス

10月30日 (木) 19:00開演 王子ホール 出 演:ジャン=ギアン・ケラス (Vc)、

ジェローム・デュクロ(Pf)

入場料:5000円

お問合せ:王子ホール 03-3567-9990

ヨーヨー・マ ラテン・アメリカへの憧れ

11月3日 (月祝) 14:00/18:00開演 サントリーホール ※ほか公演あり

出 演: $\exists -\exists -\cdot \neg \neg (Vc)$ 、ホーザ・パッソス (Vo)、セルジオ&オダイル・アサド (Guit)、キャサリン・ストット (Pf)、パキート・デリヴェラ (CI)、シロ・バチスタ (Perc)、ニルソン・マッタ (DB)

入場料: S18000円 A15000円 B12000円 C8000円

D 5000円

お問合せ:ミュージックプラント 03-3466-2258

(チケットは9/13発売予定)

堤 剛プロデュース2003

11月5日 (水) 19:00開演 サントリーホール・小ホール

出 演:堤 剛 (Vc)、野平一郎 (Pf) 入場料:全席指定4000円 学生席1000円 お問合せ:サントリーホール・チケットセンター 03-3584-9999

ハレー・ストリングス・クァルテット ~コンサート・8~

11月13日 (木) 19:00開演 JTアートホール アフィニス 出 演:向山佳絵子 (Vc)、漆原啓子・篠崎史紀 (Vn)、 豊嶋泰嗣 (Va)

入 場 料:全席指定3000円

お問合せ: J T アートホール アフィニス 03-5572-4945

編集後記

長い長い冷夏があけた途端、ものすごい暑さが待っていました。全国の会員の皆様は、この夏をいかがお過ごしでしたでしょうか。日本チェロ協会事務局がありますここサントリーホールも、8月は保守点検のためしばし音楽の聴こえない静かなホールでした。秋からはまた、我らが会長 堤先生の公演、ヨーヨー・マの来日…etc.いわゆるシーズンに突入します。よろしければ皆様も是非公演へお運びください。 (田中)

日本チェロ協会会報 (JCS NEWS) 第18号

2003年8月31日発行

発 行:日本チェロ協会

東京都港区赤坂1-13-1 サントリーホール内 電話 03-3505-1001 FAX 03-3505-1007

発行人:堤剛

編集:日本チェロ協会事務局編集協力:リュウカンパニー